研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
C-179		21-303	慶應義塾大学　加藤眞三

題名（原題／訳）

Consistency between self-reported alcohol consumption and biological markers among patients with alcohol use disorder - A systematic review
アルコール使用障害患者における自己申告のアルコール摂取量と生物学的マーカーの整合性 - 系統的レビュー

執筆者

Dorthe Grüner Nielsen [1], Kjeld Andersen [2], Anette Søgaard Nielsen [3], Carsten Juhl [4], Angelina Mellentin [5]

掲載誌

Neurosci Biobehav Rev. 2021 May;124:370-385.　doi: 10.1016/

キーワード	PMID
アルコール消費量、アルコール使用障害、バイオマーカー、自己申告、治療法	33581224

要　旨

背景　アルコール使用障害（AUD）の治療を受けている患者におけるアルコール摂取の自己報告とアルコールバイオマーカーの間の整合性を検討した系統的レビューはまだない。そこで、AUD 治療中の患者における自己申告のアルコール摂取量とバイオマーカーの間の整合性について概観することを目的とした。

方法　電子データベース MEDLINE、PsycINFO、EMBASE、Cochrane Database of Systematic Reviews（CDSR）、CENTRAL を用いて、AUD 患者サンプルにおける生体マーカーを用いた自己申告によるアルコール摂取の妥当性を検討したすべての原著論文を検索した。適格とされた研究は、結果の質的統合に含められた。品質評価は、The National Heart, Lung and Blood Institute が開発した Observational Cohort and Cross-sectional studies のための品質評価ツールで行った。

結果　検索により 7672 件がヒットし、13 件の適格な研究からなる 11 件の論文が含まれた。すべての研究で、自己申告とバイオマーカーの間に矛盾があることが判明した。短期、中期、長期のバイオマーカーにおいて、最も一般的な不整合は過少報告であった。短期バイオマーカーでは、7 件の研究（n=15-585）で過少報告が 5.5%～56.0%の範囲で、2 件の研究（n=34-65）で過大報告が 5.9%～74.1%の範囲で示された。中期的な直接的マーカーについては，過少報告のみが報告され，2 つの研究（n＝18～54）で 5.0%～50.0%の範囲で指摘された．長期的なバイオマーカーの結果は研究間で一貫して報告されていないが、過少報告は 3 研究（n=73-1580）で 0.1%-40.0%の範囲、過大報告は 2 研究（n=15-1580）で 13.0%-70.6%の範囲で指摘されている。自己申告のアルコール摂取量と生物学的マーカーとの相関は、中期の直接マーカーで最も強く、中程度から強度の範囲であった。短期および長期のマーカーでは、相関はほとんど弱かった。研究の質は、ほとんどが「まあまあ」と評価された。

結論　本結果は、自己申告によるアルコール摂取量とバイオマーカーとの間に矛盾があることが、かなりの割合の AUD 患者で生じている可能性を示している。しかし、この予備的統合を確認するために、より感度が高く、特異的で、容易に評価できる生物学的マーカーを適用したさらなる研究が必要である。PROSPERO 登録番号：CRD42018105308。